

榊原病院 Monthly

Vol.52
2021.December

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦 (むらた まさひこ)

1962年生まれ

1991年富山医科薬科大学医学部卒

1996年同医学部大学院卒

2014年国立病院機構北陸病院精神科部長

2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。



病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

新病棟改築を終えて

南1病棟師長 高橋 久美子

当院では令和2年度6月よりI期工事が開始され、北病棟の改修が終了し認知症病棟と強度行動障害への対応の充実化が図られました。そしてこの度、第II期工事を終え、令和3年10月より北2病棟での難治性精神疾患治療（クロザピン治療）および南1病棟での急性期治療が本格的に稼働しました。これら新病棟の治療環境は格段に充実しております。

今回の改築における大きな変化は、ナースステーションのオープンカウンターです。精神科病院でのオープンカウンターは数少なく、運用が開始になるまではどのような病棟になるのかイメージを持つことができていませんでした。しかし新病棟へ移転後、オープンカウンターの開放感に患者様も職員も表情が明るくなりました。より患者様との距離が近く感じられるなか、患者様と看護師が違和感なく対応する姿が見られ、榊原病院が新たな第一歩を踏み出したように感じました。

また、浴室もプライバシーに配慮され患者様がお一人ずつ、ゆったりと入れるような個室になりました。ホールも開放的な空間としての利用だけではなく、個々の患者さんがゆったりと過ごせるような空間利用も可能となっており、療養環境として大幅な改善が図られました。

精神科へのイメージは、「暗い」「怖い」「閉鎖的」というイメージを持たれることがあると思います。今回の改築を機に療養環境の向上が図られ、建物内のイメージを変えていけることだけにとどまることなく、その環境を最大限に生かした医療の提供を実施していけるよう日々努めていく必要があると考えております。

当院が目指す患者様中心の看護の提供および「小規模・多機能・高規格」の精神科病院として、地域の皆様に求められる病院として機能を果たせるよう、病院職員一同、心をひとつに今後も『精進』するとともに『邁進』してまいります。

どうぞ、今後とも新たな榊原病院をよろしくお願い致します。

トピックス

行事・出来ごと

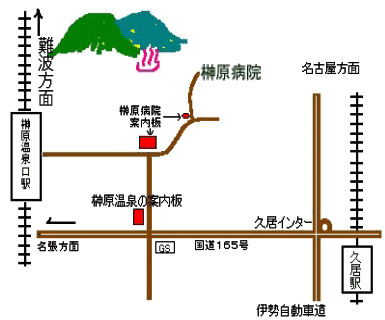
- 病棟の改修工事が完了いたしました。南1病棟は9月30日、北2病棟(旧南2病棟)は10月4日より新病棟にて運用しております。
- 新型コロナウイルス対応として、入院患者様の外出、外泊、面会を制限させていただいております。情報は随時更新しておりますので、院内掲示やホームページで御確認願います。

診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
- 専門外来
- ・ こころのリスク外来

病床数 175床

- ・ 精神科病棟 157床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 強度行動障害ユニット



電車・バス／近鉄久居駅下車 三交バス
(車庫前行き) 約30分
自動車／久居インターより約20分
マイクロバス／久居駅より直通バス(約25分)



〒514-1292 三重県津市榊原町777番地

<https://sakakibara.hosp.go.jp/>

代表電話 TEL 059-252-0211 FAX 059-252-0411

地域医療連携室 TEL 059-252-0660 FAX 059-252-0280

訪問看護ステーションゆうはあと TEL 059-252-0122 FAX 059-252-0126

地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和3年11月までに全症例は122例となりました。新規導入は9月1例、10月0例、11月0例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療、こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



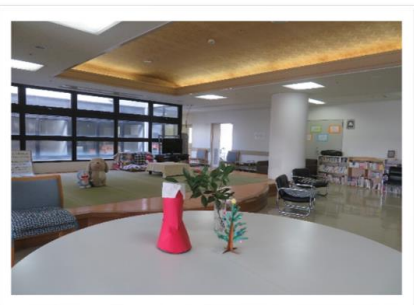
デイ・ケア案内

デイケア部門は2021年11月に南2階に移転しました。活動スペースがこれまでの2倍以上に広がりました。その中で人気が高いのがカラオケ室です。他にも木工室やパソコン室もできました。調理もデイケア内でできるようになりました。

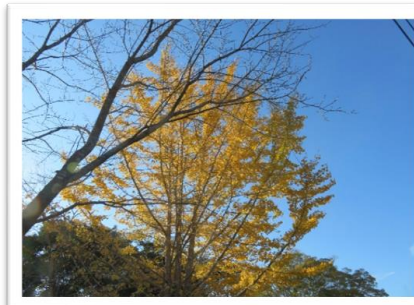
デイケアは月、火、金の午前9:30から午後3:30の時間で活動しています。デイケアに通うことは、生活リズムを整えることや、バランスのよい食事、適度な運動につながり、皆様の健康に役立ちます。デイケアでの運動は、散歩やスポーツ、コグニサイズ等のプログラムと、毎日の朝と昼の体操があります。それからSST（社会スキルトレーニング）やWRAP（元気回復プラン）などでこころの健康も目指します。こころの健康は、デイケアに来ることで、程よい距離感で人と交流することや、おしゃべりや創作活動で気分転換することも、きつと役に立つと思います。

もし6時間もデイケアで過ごすことを不安に思う方がいらっしゃれば、3時間だけのショートケアもあります。

最初は不安だとおっしゃる方も、案外と続けて通ってくださることが多いです。少しでも皆さまが気分よく過ごしていただけるように、職員はお力になりたいと思っています。まだデイケアに来たことがないという方がいらっしゃれば、ぜひ一度デイケアを見学に来て下さい。



新しいデイケアの様子です。広々としています。



町内散歩の光景です。いちょうがきれいでした。



栄養士がバランスのとれた調理指導を行います。おいしくてためになると好評です。

※ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。



栄養コラム

「日本食品標準成分表2020年版（八訂）」 食生活の多様化による食品項目の追加

「日本食品標準成分表」(以下成分表)は日常的な食品の食べられる部分100gあたりに含まれる栄養成分(炭水化物、たんぱく質、脂質など)やエネルギーなどの数値が掲載されているものです。昨年、改定版である2020年度版(八訂)が公開されました。近年、食生活や社会の環境の変化によって新たな食品が食卓に出現するようになってきました。成分表は、日本人が日常的に食べている食品の成分を示すものです。今回、えごま、ほんしゅうじか(ジビエとして)、コリアンダー、こんにやくゼリーが追加されました。このように食卓が多様化するに伴って成分表の収載項目も変わっていきます。

